

第1回高松中心市街地プロムナード化検討会議 議事概要

1. 会議の日時及び場所

(1) 会議名 第1回高松中心市街地プロムナード化検討会議

(2) 日 時 令和5年4月24日(月) 午後2時30分から午後3時30分

(3) 場 所 香川県庁 本館21階 特別会議室

2. 出席委員の氏名

中村 英夫、西成 典久、柏原 亮、高瀬 直輝、今西 照章、堀川 満弘、石川 孝雄、
宮武 一郎、清水 純(代理:小竹 良)、久保 雅寛、中村 弘孝、中川 昌之、
板東 和彦、多田 仁、竹内 正巳、海津 洋

以上、16名

3. 議事概要

(1) 委員長の互選、副委員長の氏名及び会議の公開について

- ・高松中心市街地プロムナード化検討会議設置要綱第2条第2項の規定により、委員の互選によって、中村委員が委員長に選任された。
- ・委員長は同規定により、西成委員を副委員長に指名した。
- ・本会議は原則公開することとし、個別のケースで委員長の判断により、非公開とすることとした。

(2) サンポート高松地区のプロムナード化について

事務局から資料2について説明した後、質疑を行った。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

サンポートにアリーナやホテルができるのは非常にありがたいことであるが、歩行者と車の動線について、現状でも日常的に時間帯によってはかなりの渋滞が発生している。

今は歩行者と車を時差信号で対応しているが、今後1万人規模のイベント、通常でも2千人程度の集客がアリーナであった時に、このままでいいのか疑問を呈している。

私どもとしては、JRホテルクレメント高松前の交差点に陸橋を設け、歩行者と車両を完全に分離し、道路は車両専用にするをお願いしたい。高速艇乗り場から琴電高松築港駅に行くかなりの方が横断歩道を通行されており、フェリーから降りた車が時間帯によっては渋滞しているので、改めてサンポート周辺の歩行者と車の分離を考えていただきたい。

【事務局】

7月に社会実験を行う予定としており、交通の流れや需要の変化を確認した上で、どのような対応ができるのか検討していきたい。

【四国地方整備局道路部長 清水委員代理 小竹道路調査官】

資料6ページの自動車と歩行者の交通量は、平成29年と30年に調査したものであるが、最新の

交通量を調査する予定はあるか。

また、今はビデオ撮影により、車や歩行者の方向別の動きも分かるので、そのような交通量の調査に取り組んでいただきたい。

【事務局】

現状の平日・休日、また、社会実験時の平日・休日の交通量を調査したいと考えている。

交通量調査については、目的等を再度整理した上で、必要な調査を実施したい。

【四国運輸局交通政策部長 久保委員】

プロムナード化は交通、物流事業者への影響が非常に大きいことが予想されるので、タクシー事業者やトラックなど貨物関係事業者の方の意見も聞きつつ進めていただきたい。

【事務局】

事業者の方々に、実際の需要がどうあるのか、問題がどこにあるのかも含め、聞き取り調査等を実施したいと考えている。

【四国旅客鉄道株式会社 高瀬委員】

歩行者を上げて歩車分離するのも一つの解決策であるが、一方で歩行者目線では、ずっと平面で歩いた方が回遊性、周遊性を確保する上では大事なことかと思う。委員の中でもいろいろな意見があるので、調整して、本当にサンポート地区を利用していただける皆さんが使いやすいまちづくりができればよいのではないか。

今回はサンポート地区の議論に集中すると思うが、その先の高松中心市街地を含めてプロムナード化をどういった形で進めるのか、全体的なところも何か道筋が見えればそちらに向かっていきやすくなるのではないか。

【事務局】

次の議論に向け、どのような確認や調査をする必要があるのかということも含めて検討したい。

【日本大学 中村委員長】

船で来られた歩行者の交通量について、今の段階で何かデータはあるか。

【事務局】

歩行者の横断箇所は何箇所かあり、そのあたりの状況も含めて調査を検討したい。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

アリーナができた時に、駐車場、タクシー、送迎バスなど、いろいろと問題になってくると思う。例えば、車をサンポートの地下駐車場が置けないから県営玉藻町駐車場に置くとなると、人がアリーナとフェリー間の道路を横断すると思うので、そのあたりもある程度シミュレーションに入れて、交通はどのような流れになるのかということも含めて、検討していただきたい。

【事務局】

いろいろなケースを想定して検討していきたい。

【高松市都市整備局長 板東委員】

にぎわいや回遊性のウォークアブルなまちづくりということで、サンポート地区のプロムナード化に取り組んでいくということは、本市も県と情報共有をさせていただいている。今後、皆様方や関係者の御理解や御協力を得ながら、取り組んでいく必要があるものと考えている。

一方で、サンポートは、土地利用や業務機能の高度化を念頭に、それを受け持つ街区構成をしており、市道高松駅北線や浜ノ町錦町線などを平成4年度に都市計画決定し、現在に至っている。資料6ページでは約1万台が東西に横断しており、さらにアリーナ、外資系ホテル、徳島文理大学ができることによる新たな発生集中交通のようなものも当然出てくる。プロムナード化を検討していくには、これらの交通量をどうさばいていくのかということも含めて、いろいろ対策を考えていく必要があり、地域住民を始め、事業者との合意が一番のハードルになってくると思うので、こういった情報については地元の方の誤解を招かないように、早めに情報提供や説明をして、慎重に手続きを進めていく必要があるものと考えている。

【シンボルタワー開発株式会社 石川委員】

シンボルタワーの商業については、特にコロナ禍で人流がかなり減ったことに大きな影響を受けている。シンボルタワーと駅前広場が4車線道路で分離されており、オフィスなど高い目的性で来られる方には大きな障害ではないのだろうが、商業のようにぶらぶらと歩きながら目的を見つけていくという方にとっては障害になっているのではないかと。16ページのイメージのような形で、グラウンドレベルで歩行者が自由に往来できる一つの姿ができると、にぎわいも含めて大きな人の流れができ、サンポートにさらなる人の流れを生むという意味では大変効果的ではないか。

【香川大学 西成副委員長】

サンポートの再開発は、高松全体、もっと言うと香川全体、備讃瀬戸周辺に大きな影響を及ぼす可能性があるため、そのビジョンの作り方というのが重要になってくる。

これまでの都市計画は人口がどんどん増加していく時代で、あらゆるところで交通渋滞が起これ、それらを解決するための道路や駐車場の作り方をせざるをえなかったと思う。今、日本全国でウォークアブルなまちづくりが進められていく中で、交通への配慮というのは重要であり、十分な公共交通等を準備しながらやっていく必要があろうかと思う。

このサンポートエリアだけではなく、その隣にある日本で最初で最大と言われるような海城であるとか、海も城も街も近いという他のまちにはない魅力を存分に活かすことで、きつとにぎわいをどんどん生み出すことができるのではないかと。にぎわいを生み出すという観点で見た時に、要は機能を満足させる都市計画ではなく、全体で魅力が生み出せるようなビジョンづくりができればよいのではないかと。ただ、それらを十分に理解してもらおう時間というのは必要かと思う。

【事務局】

この地区はいろいろな魅力があると思う。一方で、フェリーから降りてくる車両の通行や、観光客の方々が歩いてこのあたりを回遊していただけるようなゾーンづくりを考えて、整備をしていく

必要があると思っている。これから検討する中で、どういうふうに通需を変えていくのか、変わっていくのかというところも確認しながら検討していきたい。

【香川県バス協会 今西委員】

資料7ページに路線バスの資料があるが、非常に便数が多い。JR高松駅の南からは高速バスも発着している。アリーナが完成してイベント等開催されると、人の動きと非常に輻輳すると思われる。公共交通にとっては、安全、安心が最優先になるので、事故が起こらないような安全対策が必要になってくると思う。

アリーナで大規模イベントがあった場合に、周辺の駐車場からのシャトルバスの運行も当然考えないといけないと思うが、運行ルートや、アリーナ周辺での乗降スペースの確保もあわせて、検討課題としていただきたい。

【事務局】

関連事業者に聞き取り調査をする際にはそういった項目を含め、今後検討する内容を皆様にご提示できればと思う。

【四国地方整備局建政部長 宮武委員】

この会議は、まちづくりというか、にぎわいを考えていく会議だと認識しているが、そのまちづくりをした結果が持続するという観点も重要ではないか。一過性に終わらず、これが10年、20年と続いていくという観点も重要であり、第2回会議の他都市の事例紹介では、そういった観点でも紹介していただけると有意義な議論になる。

【事務局】

そういった観点でも他都市の事例を集め、御紹介できればと思う。

【日本政策投資銀行 柏原委員】

サンポートは陸海空の結節点として非常にポテンシャルのある場所だと理解している。ウォーカーブルなまちづくりというコンセプトであるが、来訪者の滞在時間を延ばすような、様々な仕組みづくり、コンテンツの方も大切になってくると思う。人口が減っていく中で、サンポートが交流人口を増やしていくための一つの拠点になるのではないかな。

また、将来を見据えると、なるべく自家用車で来ないような場所にしないといけないのではないかな。復活したインバウンド、港を利用して多島美を見に来られる観光客、JRや琴電を使って四国の各都市や他のエリアを訪れる方も集まってくる中で、この場所にワンタッチではなく、なるべく長く留まって回遊していただくためには、便利な二次交通やMa a Sのような手段も必要になってくる施策だと思う。

現実的には、今ある交通体系をどのように整理し、にぎわいづくり、まちづくりとどうシンクロさせていくのかということころは、非常に難しいと思っており、その検討がこの半年でできるのかや不安に思うところもあるが、交通政策も非常に大切だと考えられるので整理をお願いしたい。

【事務局】

交通政策の整理は必要だと思うが、時間がかかるため、タイトなスケジュールの中で完全なものになるかどうかは分からないが、将来の計画も見ながら方向性を一定お示しさせていただきたい。

【日本大学 中村委員長】

各委員の御意見を伺い、回遊性のあるまちづくりについては、そういった方向性で頑張ることは大事であるといった御意見が多かった。ただ、そういったことをやっていくためには交通処理をしっかりとしないと、なかなか難しいといった御意見があったかと思う。

また、サンポートが今日の議論の中心であったが、この会議の設置主旨にもあったように、中心市街地との繋ぎのような大きなところまできちんと見据えてやることも大事だといった御指摘もあった。いずれもそのとおりだと思うので、ぜひ中心市街地との繋ぎ、大きな概念的な部分については、次回の第2回会議の中でも、少し大きな整理を早めにされた方がいいのではないかと。

それから、検討会議やその後の合意形成を図っていく中で、まだ話は早いかもしれないが、サンポート地区のプロムナード化が社会実験の状況等を踏まえると、場合によっては、段階的あるいは部分的にやっていくとか、様々なやり方の案があるような気がする。第2回会議の中で、このサンポート地区についていくつか道筋があり得るといったことも共有できるといいと感じたので、ぜひそのあたりの整理を進めていただけたらありがたい。

第1回目ということで本日はいろいろと御意見を頂戴した。私が伺った感じでは、回遊性やプロムナード化については、もし可能であれば平面で動き回れた方が望ましいといった意見もある反面、やはり自動車の交通がきちんと通れるような形を考えなくてはならない、また、公共交通の安全・安心といったこともしっかり事業者の方々との意見交換、合意形成といったことが大事というような意見があったかと思う。事務局から説明があったとおり、今後、検討を進めていくという形で、御了承いただいたということでよろしいか。

(異議なし)

それでは、事務局は検討作業を進め、本日いただいた様々な御意見について、丁寧に対応いただくよう、よろしく願います。

-以上-